

# 会議等結果報告書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>会議</b> </div> ・打合せ・協議	文書番号	—
		決裁期日	平成27年10月13日
名称	平成27年度第3回未来創生委員会		
日時	平成27年9月30日 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">午前</span> ・午後 9時30分～12時00分		
場所	安平町役場早来庁舎（第2会議室）		
出席者	安平町（企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹、高橋主査 北海道胆振総合振興局地域政策部戦略策定支援担当部長 高見芳彦氏（随行1名） 委員 未来創生委員会委員11名（大館委員、川崎委員、芳賀委員の3名が欠席） 外部有識者 北海道銀行地域振興・公務部地域戦略部長 坂本眞 株式会社道銀地域総合研究所取締役常務執行役員 浦田祥範 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信 FPオフィス・サポート代表 星洋子 4名		
会議概要	<p><b>1 開会（進行：木林企画財政課長）</b>          ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p><b>2 委員長挨拶</b>          ◇第2回目の会議では、2つのグループに分かれて様々な討議を行い、皆様からアイデアが出され、事務局よりこれらをまとめた資料が送付された。          ◇本日は、前回議論が深まらなかった部分を、再度グループ討議し協議する。          ◇また、事務局からは、この「まち・ひと・しごと総合戦略」の上位計画となる平成29年度からの10年間の長期総合計画の策定方針（案）について、説明を受けることとしている。          ◇活発なご発言により実りある会議となることを希望する。</p> <p><b>3 未来創生委員会外部有識者の紹介</b>          ◇外部有識者による自己紹介</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;北海学園大学経営学部教授：菅原様&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専門が非営利組織論、公企業論であり、NPO法人など民間組織による協働社会の創出について研究を行っている。</li> <li>●ゼミ生を商店街組織にフィールドワークとして学ばせている。</li> <li>●まちづくりは「よそ者」「若者」「ばか者」が主体になるといわれるが、人口減少対策における外部有識者という肩書きであり、よそ者として何かしらの参考となる話ができればと考えている。</li> </ul> </div> <p>*菅原教授からは、総合戦略のたたき台や、総合計画策定手法に対して様々なご助言があり、前歴などから、総合戦略策定部分における外部有識者の立場に加え、第2次安平町総合計画策定において「策定アドバイザー」を委嘱する予定を説明</p> <p>● <b>北海道胆振総合振興局情報提供</b>          → 北海道は最終案ができあがりパブリックコメント予定</p>		

→東胆振では、厚真町が案のパブリックコメントを提出。10月中の策定を目指すとしている。むかわ町、苫小牧市、安平町は年末に向けての作業が佳境を迎える模様。  
→東胆振の自治体では広域連携に向けた記述について別途会議を行う予定。

#### 4 議事（議事進行：小林委員長）

- (1) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定の最終スケジュールについて（説明：企画財政課 岡）
- ◇ 国から遅くとも平成27年度中に策定することを求められ、更に今年10月末までに策定した自治体に対しては、約1,000万円の交付金を交付するとして、早い策定作業を促されていたところ。
  - ◇ 安平町としては春の動き出しの時点から、10月末までの策定はスケジュールとして非常に厳しいとは考えつつ、貴重な事業財源となる交付金を最初からあきらめることはできず、両睨みで作業を進めてきた。
  - ◇ 未来創生委員会における協議状況や、庁舎内での施策協議、次年度以降の予算との兼ね合いなど、現状に鑑み、10月末の拙速な策定はやめることとし今後の日程を定めたもの。
  - ◇ 10月中に「素案」をまとめ送付させていただき、書面等で意見をもらい、11月中旬に「素案」を「案」にする作業となる。  
\*今後のスケジュールについては、議案2ページ参照

#### (2) 具体的な施策のアイデア出しについて（説明：企画財政課 岡）

- ◇ 現在、9月2日に開催された未来創生委員会で協議されたアイデアを庁舎内で議論していることを説明。（アイデアを具体的な事業にするための役所内協議）
- ◇ 2回目のグループワークに入る前に、田中委員から提出されている資料（棚会員考察）について、委員本人から説明をいただいた。

##### <田中委員>

- ・前回の「雇用」に係るグループワークから変更となったので、発言内容を資料化したもの。
- ・現在の未来創生の議論は「木を見て森を見ず」の感がある。
- ・個別の施策や事業の議論をしているが、安平町の何を引き伸ばし、どの部分がポイントなのかというグランドデザインが無い。
- ・どの地域資源を活かして、どのような町を作るのかと考えた場合、この町の強みは「農業」しかないのではないかと考えた場合、「農」を活かしたまちづくり
- ・安平町の「農業」を主軸とするまちづくりを提案したい。
- ・検討されている事業には、私が提案した内容が網羅されていることは分かる。しかし、まちのイメージ・グランドデザインを定めなければ、町民として、この安平町がどのような町なのかが分からなくなる。
- ・行政計画の作り方としては、このようになるのかもしれないが、ポイントを絞った方が良い。

\*「農」を活用する個別事業は、資料記載のとおり。

##### <企画財政課：岡>

- ・人口減少対策の問題は極めて重要であり、本来、地域の強みとは何か。という議論から入るべきであることは理解。
- ・しかしながら、国からの総合戦略策定の流れに沿い、「人口減少対策の施策は何か」という具体論から入らざるを得ない現実もある。

- ・田中委員と同様、皆さんも違和感があるであろう「一体どんなまちをつくるのか」という大きな部分は、平成29年度からの10年を期間とする「第2次安平町総合計画」の策定において議論させていただきたい。
- ・今回の「総合戦略」は細かい施策展開 → まちの魅力を引き伸ばすためのテーマ・未来像については、この後策定する「総合計画」の中で決めるという落としどころで理解をいただきたい。(現総合計画のダイジェスト版を参照)
- ・現段階では、当町の「利便の良さ」「丘陵や牧歌的な風景がおりなす景観」など地域資源等の活用という表現にとどめさせていただきたい。

#### <山口委員>

- ・細かい事業の一覧を資料として提示いただいているが、これだけ多くの施策というものを短期間で実施するというのは非常に困難ではないかと考える。
- ・施策を進めていくための大きな柱が必要であり、安平町の「強み」「弱み」を整理するべきではないだろうか。
- ・我々がこの委員会に参加する際、問題は人口減少・人口構造の変革である。
- ・検討されている施策には、かけ離れたものもあるのではないかと。
- ・人口構造を変えるためのポイントに絞った議論が必要

#### <企画財政課：岡>

- ・幅広い施策の書き方となっている部分について、戦略においてどのように絞った書き込みができるのか検討させていただきたい。

#### <企画財政課：木林>

- ・現在検討されている施策については、分野に分けて記載しているものもあり、事業の重複もある。国からの交付金を目論み、個別事業記載になっていて、ポイントが絞られていないように感じるかもしれないが、総枠でまとめていくと事業数はそれほど多くない。人口減少対策としてある程度絞った事業であることを理解いただきたい。

#### <福田委員>

- ・田中委員がおっしゃっている核になる部分が一体何なのか。
- ・農業を中心にやっつけようとしても決まれば、農業に従事する方の子育て支援について、どのような施策があるべきかという議論にもなる。
- ・今協議している施策の一覧が、一体何を・誰をターゲットにしているのかが見えないということにつながるのだと思う。

#### <企画財政課：岡>

- ・その点が大きなジレンマである。繰り返しになるが、町が向かう将来像というのは、総合計画の議論で決めていきたい。
- ・総合戦略の施策については、総合計画を策定した段階で磨きをかけ、見直しをしていくというイメージとなる。
- ・なかなか、イメージが伝わらないと思うが、ご理解いただきたい。

——グループワークへ——

●グループワークでの協議・施策アイデアについては、別添資料参照

(3) 第2次安平町総合計画の策定について（説明：企画財政課 岡）

\*資料：策定方針（案）

- ◇現行の総合計画は平成19年3月に策定。（配付したダイジェスト版参照）
- ◇平成28年度で現計画が終了することから、平成29年度からの次の計画を策定するもの。
- ◇総合計画は「基本構想」「基本計画」で構成される。
- ◇「基本構想」はグラウンドデザインを描くもの。
- ◇「基本計画」はグラウンドデザインを実行するための施策を描くもの。
- ◇およそ1年半で策定していく。
- ◇総合計画の策定にあたっては、基本的に民間コンサルへ委託をせず、自前で策定するものであるが、策定手法等に専門的な見地から助言をいただくため、未来創生委員会の外部有識者である菅原教授を「総合計画策定アドバイザー」に委嘱する予定である。
- ◇安平町まちづくり基本条例に基づき、住民参画・協働をモットーとし、計画策定にあたっては、最初の段階から住民意見を取り入れていく考えにある。
  - 「アンケート調査」「各種団体からの政策評価・聞き取り」「町民座談会」「移住希望者との情報交換のしくみづくり」「あびら夢・未来町民100人フォーラム（安平町の強み・弱みを洗い出し、将来テーマを定める一助とするためのワークショップ）」「町民説明会又はパブリックコメント」「町民政策提案制度」「町民まちづくり会議」
- ◇ゴールは平成29年3月の議会となる。
- ◇策定後、未来創生委員会は、作られた総合計画と総合戦略の評価をする機能で維持していく。

## 5 その他

次回会議開催は、11月上中旬で日程調整